



編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会
発行 山陰教区 教務所
〒660-0002 松江市大正町四三ノ一
本願寺山陰教室
TEL 〇八五二 四七四七
FAX 〇八五二 八三五一
発行者 佐々木 了慎

「浄土真宗のみ教え」についてのご親教

2021(令和3)年4月15日、立教開宗記念法要の後に専如ご門主はご親教を述べられ、「私たちも(親鸞)聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を『浄土真宗のみ教え』として味わいたい」として「浄土真宗のみ教え」をお示しく下さいました。

本年も、皆さまと共に立教開宗記念法要のご勝縁に遇わせていただきました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証』を著して他力の念仏を体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていることをあらためて味わわせていただきます。

さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常や諸法無我という言葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身をもって受け入れることのできない私たちは、日々「苦しみ」を感じて生きていますが、その代表的なものが「生老病死」の「四苦」であるとお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの煩惱を抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れることはできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」と言われました。そして、阿彌陀如来は煩惱の闇に沈む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、そのお慈悲のお心を「南無阿彌陀仏」のお念仏に込めてはたらき続けてくださっています。ご和讃に「罪業もとよりかたちなし 妄想顛倒のなせるなり」「煩惱・菩提体無二」とありますように、人間の分別がはたらき出す前のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿で摸れ取ってください。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗」(『浄土和讃』)、「信は願より生ずれば 念仏成仏自然なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃うたがはず」(『高僧和讃』)とお示しになっていきます。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」という「南無阿彌陀仏」に込められた阿彌陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然の浄土」(『高僧和讃』)でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿彌陀如来に願われないのちと知らされ、その温かなお慈悲に触れる時、大きな安心とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに敬い支え合う

世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝の道歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちも聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

浄土真宗のみ教え

南無阿彌陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の彌陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 彌陀のよび声

ありがとう といただけで

この愚身をまかせ このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しづつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々 精一杯 つとめます

来る2023(令和5)年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださいましたことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきます。なお、2018(平成30)年の秋の法要(全国門徒総追悼法要)の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会を引き続き唱和していただき、み教えにつながるご縁にさせていただきたいと願っております。

2021(令和3)年4月15日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

フードバンク活動報告

山陰教区では、「御同朋の社会をめぐす運動」(実践運動)の重点プロジェクト「貧困の克服に向けて」(Dānā for World Peace)―子どもたちを育むために―にかかる具体的取り組みとして、本年度から「フードバンク活動」を実施しております。(詳細は教区報第一四八号で紹介)

会」や各研修会で食品などをお持ち寄りいただき、また、宅配便等でもお送りいただいております。現在までに、延べ六〇人を超える方々から二六〇を超える品々が寄せられ、松江社会福祉協議会に二回、出雲市社会福祉協議会、雲南市社会福祉協議会にそれぞれ一回お渡しいたしました。

今後も、食べる物に困っておられ

る方々へ少しでも多くの品をお届けするため活動を続けてまいります。食品以外でもお届けすることができ

る物もあります。ご不明な点や詳細は教務所までお問い合わせください。



松江市社会福祉協議会受け渡し(5月26日)



出雲市社会福祉協議会受け渡し(7月9日)



雲南市社会福祉協議会受け渡し(7月21日)

令和三年七月・八月の大雨による被害状況について

本年七月・八月の大雨で被害に遭われた皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

山陰地方では、七月七日早朝から線状降水帯の影響を受け、各地で集中豪雨が発生しました。また、八月初旬には台風九号が上陸、八月十一日以降は連日大雨が降り続き、各地で甚大な被害が発生しました。

被害状況については、所属寺院のご住職さまから組長さまを通して教務所にお知らせいただいております。

教区における被災状況、対応につ

きましては、次の通りです。

一、被災状況

寺院被害 九ヶ寺

出雲組二ヶ寺、神門組三ヶ寺、

出雲南組一ヶ寺、川本組二ヶ寺、

千須賀組一ヶ寺

被害状況・本堂屋根破損、庫裏

瓦落下、山門扉破損、敷地内土

砂流入・法面崩落など

門徒被害 一八〇件

鳥取因幡組二件、出雲組二十四件、

神門組二十五件、出雲南組五十二件、

飯南組六十二件、川本組一件、

二、教区の対応

七月九日(金)、七月二十一日(水)、

八月三日(火)、九月二日(木)、九

月三日(金)、被害報告をいただいた

組事務所並びにご寺院へ、教務所

長と職員がお見舞いに伺いました。

九月二十八日(火)、教区災害対

策委員会を開催し、大雨被害の対応

について協議を行います。

今後も継続して支援活動を続けて

まいります。

ご本山への団体参拝は弊社へご用命をよろしくお願い致します。

JTB 感動のそばに、いつも。

株式会社 **JTB 山陰支店**

〒690-0003

松江市朝日町477-17 松江SUNビル7階

TEL 0852-23-6720

FAX 0852-23-7739

営業時間：9:30~17:30 (土・日・祝日休業)

二〇二一(令和三)年度 山陰教区布教団総会・研修会

鹿足組 明圓寺 藤村修 慈

二〇二一(令和三)年四月二十六日、本願寺山陰教堂教化センターにおいて、山陰教区布教団総会・研修会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初予定から二か月遅れで総会のみの開催でしたが、今年度は感染予防対策を行って予定通りに開催されました。

総会においては北島清秀副団長が



議長を務められて役員の変更、昨年度の事業と決算の報告、今年度の事業計画と予算が承認されました。

総会の前に研修会があり、「私たちのちかい」と題して、浄土真宗本願寺派総合研究所研究員・野村淳爾師から講義をいただきました。「私たちのちかい」が示されてから二年五か月近かつたっています。若い方々になかなか「さまざまな機会」で唱和いただけていません。どのようなお話があるのか興味を持って拝聴しました。

講義の最初に、「ご親教はご門主の法話であるので、本来は解説を加えるべきものではない」「一人ひとりがお聖教、み教えに照らしながら受け取らせていただくもの」「この日の内容も私の味わいを伝えるもの」という注意を述べられました。先生は「『仏さまのように』という共通キーワードを、義務的なものではなく、私たちの理想的な生き方を示すものと味わわせていただいている」と仰いました。続いて各段落を一段ずつ味わわれ、「自己の価値観や価値基準を離れ、多様な視点、すべてのものを平等にみつめる視点に

基づく行動が促されている」とまとめられました。

「私たちのちかい」についてはSNSなどでもさまざまな方がそれぞれの視点からお考えを述べられています。私自身が行動するときには、自己の視点を離れているか、多様な視点、大きな視点に基づいているか、

「第四十五回全日本仏教徒会議島根大会」 開催百日前法要

来る二〇二二(令和三)年十月二日(土)、「第四十五回全日本仏教徒会議島根大会」が島根県民会館で開催されます。

開催の百日前となる六月二十四日、「大会開催百日前法要」が安来市・清水寺にて執り行われました。清水寺は、天台宗の寺院で、本大会の大会長・清水谷善圭氏が貫主を務められています。

全日本仏教会・木全和博事務総長をはじめ、大会実行委員を務める島根県内各宗派の有志が参集。浄土真宗本願寺派からは、本大会実行委員会幹事を務める佐々木了慎教務所長が出動しました。

「慈悲の鐘」の後、清水寺の境内を参進し、根本堂内陣にて法要が執り行われました。法要後、清水谷大

ふりかえることを心がけたいと思いました。ありがとうございました。



会長並びに木全事務総長から、大会の円成を願い、ご挨拶がありました。

連研履修者研修会に参加して

松江組

順光寺

榎ゆずりは

佳けい子こ

一年前に門徒推進員養成連続研修会を受講しました。話し合い法座で、自分について、周りの人について、物について、世の中についてなど、「十二の問い」について話し合いました。今までの人生観がそれぞれ違う方々と話し合いをする中で、自分を見つめ直す良い機会をいただき、今回連研に参加された皆さまとの出逢いに感謝です。日常生活の中、自分に問いかけてみると「み教えを聞く」という営みから「み教えに聞く」という人生が開かれてくるということを学びました。まだまだ理解はできにくいですが、これはあくまでも通過点であると思っています。

私は保育所勤務をしていましたので、保育以外に関心を示すものはありませんでしたが、義母がお寺の仏教婦人会に所属しており、大正琴や陶芸などを楽しみに活動していました。年を重ねると義母から婦人会を交代すると言われ、嫁の立場としては反対もできず……(笑)。お寺では「若い人!!」として可愛がっていただきました。

仏教婦人会の毎月の例会は今でもなかなか参加できないのですが、お

寺の大きな行事には、門徒として参加していました。それから、私自身がお寺との関わりなど、身をもって知る機会ができ、年齢を重ねるとお浄土にいる家族はどうしているだろうかなど考え、順光寺での法話をお聞きしてまた関心を持ち、連研に参加し、「阿弥陀如来のお慈悲の有難さ・尊さを一人でも多くの方に伝えるために、自分自身ができること」について話し合いました。

そんな中で、三月十三日に開催された「連研履修者研修会」に参加しました。参加された方の多くが中央教修を終えた方で、講義をお聞きしながら場違いのような感じもしましたが、ご講師から「『私たちのちかい』」についてのご親教を学ばせていただき、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが、後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んで参りましょう」とお話を聞きました。

また、心を新たに、南無阿弥陀仏とお念仏を称えることの学びになりました。さて、順光寺での総代会でのこと



なのですが、「門徒推進員とは何か?」「必要性があるのか?」と質問がありました。説明をしましたが、実際に連研を受けても中央教修に行く機会がなかったもので、私も門徒の方々に伝える力がないと実感した所でした。

京都・西本願寺での中央教修は、昨年からのコロナ禍の影響もあり残念ながら参加できませんでした。しかしながら、令和三年度は開催されるように楽しみにしています。最近リモート研修ばかりですが、私はやはり京都に行って全国の皆様との出逢いを大切に、学びたいと願っています。

近 御本山用達
株式会社 **川勝法衣店**

☎0120-075-055
〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入
TEL.075-371-0367(代)
FAX.075-371-5088

印刷と出版でできること。
編集・デザイン・印刷・出版のプロとして
様々なソリューションを提供する。
人と向き合い、地域と向き合い一緒に一つ一つつくること。
それが私たちにできる、地域貢献のカタチだと考えています。

お客様の良き相談相手になることを目指します
株式会社谷口印刷
ハーベスト出版

第四連区布教使研修会

浜田組 覚永寺 市野 覚生

七月一日(木)、第四連区布教使研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染症流行下において昨年度はやむを得ず中止となりましたが、今年度はオンラインでの開催を担当の備後教区布教団の方々が準備してくださいました。

各教区がそれぞれの教務所からの参加となりましたが、離れた場所でも同じく親鸞聖人の残してくださいさつ



たみ教えを学び、よろこばせていただく時間を過ごすことができました。

この度の研修会のテーマは『伝わる伝道』から『伝わる伝道』へ』でした。同朋研修では、登尾唯信師から「み教えと差別の現実 第二章 経典拝読について」と題し、「み教えと差別の現実」をテキストとして経典に説かれてあるお言葉をどのように受け止め、伝えていくかということの基本的な姿勢を教えてくださいました。親鸞聖人が自らの姿勢を省みながら明らかにされているように私たちも自らの姿勢を常に見直す必要があると感じます。

時代によって差別を助長するように経典の言葉を用い伝えてきた背景を見直し、阿弥陀仏のもと、平等に救われていくみ教えが伝わるように、伝道の在り方を考えなければならぬということをお話いただきました。

また続いて、相馬一意師から「大乘菩薩道と念仏者の生き方」と題してお話をいただきました。限られた時間の中で、大乘仏教の要点をまとめていただきました。お話の中にも

たくさん専門用語が存在しましたが、相馬先生から伝わってくる姿勢から、経典に出てくる言葉の意味を整理し丁寧にお話しておくことの必要性を改めて実感いたしました。

正しくみ教えが伝わるように、伝える努力を怠らないことが必要であり、み教えに向き合う自らの姿勢が「なんとなく」というところで留まっていなにかを問われるような研修会でした。



伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 **古田た佛具製作所**

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーアクセス 0120-343-036

御本山御用達 開明社員

代表取締役社長 今岡規代
●本社
600-8468
京都市下京区堀川通
新花屋町角(西本願寺前)
Tel 075-351-1234
0120-075-720
Fax 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
三栄町十四番地三二
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902



井筒法衣店

オンラインショップを開設しました



二〇二二(令和三)年度山陰教区勤式練習所



勤式のスキルアップを目指すことを目的に、今年度も「山陰教区勤式練習所」を開設することになりました。

昨年度中止となった講義内容「報恩講のお勤め」を中心に、椅子席作法も含めた講義を行います。また、コロナ禍でのお勤めについても学びます。

第一回の講義は、六月三日(木)、山陰教堂教化センター研修室にて開催しました。

開所式に引き続き、講師の朋澤融

第二回勤式練習所日程変更について

当初、七月七日(水)に開催を予定しておりましたが、勤式練習所第二回講義は、前日からの大雨により、松江市内全域に避難指示が出される状況であり、中止としました。

つきましては、次の通り日程を変更いたしますので、ご参加くださいますようお願いいたします。

〈日 時〉 二〇二二(令和三)年 十二月十六日(木) 午後一時三〇分

〈会 場〉 本願寺山陰教堂 教化センター研修室

〈内 容〉 「讃弥陀偈作法(総礼 頌・頂礼文・十二光讃・回向句)」、「往生礼讃日没偈」、「椅子席作法」「コロナ禍でのお勤め」

お申し込み・お問い合わせは、教務所までお願いいたします。

智師(教区勤式担当)から、「正信念仏偈作法」「椅子席作法」「コロナ禍でのお勤め」の講義をいただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、細心の注意を払って開講いたしました。

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要 山陰教区推進委員会が発足

宗門では、二〇二三(令和五)年に「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が修行されます。山陰教区では、この法要を迎えるにあたり、法要委員会が発足いたしました。今後、法要に向け

宗門では、二〇二三(令和五)年に「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が修行されます。山陰教区では、この法要を迎えるにあたり、法要委員会が発足いたしました。今後、法要に向け

た具体的事項については、委員会に設置された常任委員会等で協議を進めてまいります。なお、進捗状況については、教区報等にてお知らせいたします。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要山陰教区推進委員会

任期:2021(令和3)年4月1日~2023(令和5)年3月31日

名前	組名	所属寺	役職	備考
月洞昇道	三隅組	禮光寺	委員長	教区会議長 教堂責任役員
澤田暉夫	松江組	本誓寺	常任委員	教区副議長 教堂責任役員・総代
山田節子	鳥取因幡組	光輪寺	常任委員	教区常備会員
山根一記	鳥取因幡組	西念寺		教区常備会員
熊谷高暢	飯南組	一念寺	常任委員	教区常備会員
大森民雄	飯南組	一念寺		教区常備会員
菅原俊軌	大田東組	高林寺		教区常備会員
竹本嘉人	大田東組	真浄寺		教区常備会員
野田義仁	邑智東組	玄祐寺		教区常備会員
大迫幸人	川本組	法隆寺	常任委員	教区常備会員
大原孝見	浜田組	真光寺		教区常備会員
塚崎育生	浜田組	清岸寺		教区常備会員
三明浄信	大田西組	照善坊	副委員長	組長会長 教堂責任役員
吉田史章	松江組	眞光寺	常任委員	組長会副会長
上杉信成	鳥取伯耆組	香寶寺	常任委員	組長(幹事) 鳥取ブロック
佐和田 裕	飯南組	西正寺		組長(幹事) 出雲ブロック
福岡信隆	大田東組	極楽寺		組長(幹事) 石東ブロック
高倉宗隆	邑智東組	西善寺		組長(幹事) 邑智ブロック
服部浩明	浜田組	清岸寺	常任委員	組長(幹事) 石西ブロック
小原静伍	三隅組	妙蓮寺	常任委員	勤式指導員



鹿足組の実践運動

鹿足組 組長 富岡芳史

鹿足組では、宗門全体の実践目標である「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace〜子どもたちを育むために〜に対して、誰が何を何時どのように活動すべきか、ということを考えて協議しました。「浄土真宗立教開宗以来、親から子へ、孫へとお取り次ぎされてきたお念仏を今現在、田舎で生活している大人が継承していないのでは」という辛辣な意見のもと、伝道部、寺院部、組織部、社会部の各部署で実践運動活動の協議検討を行いました。本物を知ることにより迷いがなくなると言われているように、仏法という真理を知り、子や孫に伝えていく『自信教人信』の心で臨むことにしました。伝道部においては毎年、林智康勸学をお迎えして大無量寿経解説のご講義により南無阿弥陀仏のおいわれを心に刻み家族の方に伝えていただいております。寺院部においては各寺院住職、坊守、衆徒の方に「私の浄土真宗」というテーマのもとご法話をいただき、聴聞しご信心を深めております。

組織部においては組内四ブロックのそれぞれの寺院を会場として『サマーフェスタ仏の子インカンアシ』を毎年開催し、祖父母、父母、きょうだい、御縁のある地元の方と心をひとつにしてお寺とご縁、命のつながりと尊さを実感していただいております。因みに二〇一八年度は「お寺を知ろう！感じよう！」のスローガンのもと「私だけの湯飲みを作ろう」と題し四十五名の子どもたちと約四十名の大人が混じり絵付けをし、大作を完成させました。二〇一九年度は東京都でお香屋さんを経営されている上信堂蔵立社長にお越しいただき仏教とお香のつながりやおいわれのお話をお聞きした後、大人子ども全員で香しい中で「マイお香」を作成しました。二〇二〇年度、二〇二一年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりました。社会部では、今ある平和と安心が戦争で命を亡くされた多くの方の犠牲のもとに成り立っていることへの感謝の心を持てるように戦没者追悼法要を勤修し、命の尊さ、平和につ

いての認識を深めました。コロナ禍の中ではありましたが、マスク、フェイスシールド、消毒、ゴム手袋を六十名全員が装着し無事にお勤めできました。全員聞法、全員伝道のもとあらゆることが実践運動に繋がる活動であることを改めて認識させられている今日です。今後ともあらゆる仏縁を大事にし、生きとし生けるすべての命が救われていく阿弥陀如来のはたらきにお任せしていく所存です。

新人職員紹介

二〇二一(令和三)年四月一日付、山陰教区教務所に二名の職員が入所いたしました。

- 松田周道 賛事(非常勤)
所属寺・神門組西楽寺(今市)
宗務所所務部(人事担当)から異動
- 熊谷蓮生 書記(常勤)
所属寺・江津組西方寺
新入職員

教区の皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

山陰教区教務所・本願寺山陰教堂・職員職務分掌

2021(令和3)年4月1日より

氏名	教区	教堂
佐々木了慎	教務所長 教堂主管	全般統括
黒河敬生(常勤)	賛事・参勤	教区庶務全般・教区会・実践運動全般・寺院振興対策委員会・選挙管理委員会 護持口数調整委員会・法要委員会・布教団・教誨師・保護司・講社・連研補佐
松田周道(非常勤)	賛事・参勤	教区庶務・組長会・仏婦・寺婦・ビハーラ・実践運動(同朋社会部会)
磯 純吾(常勤)	書記・承仕	願記・教区費・災害対策委員会・門徒総代会・子ども若者ご縁づくり・伝道資料・社推協 教区報・ホームページ・得度講習会・勤式・団参事務・実践運動(伝道広報部会)
菅 龍慈(非常勤)	書記・承仕	仏社・仏青・寺族青年・少年・保育・スカウト 実践運動(寺院活動支援部会)
熊谷蓮生(常勤)	書記・承仕	願記・門徒推進員・連研・各種団体補佐 実践運動補佐(寺院活動支援部会)
		燈映会 教堂参拝



この度、多くの方々や先人のおかげにより、神門組総代会が結成五十周年を迎えることができました。数年前から築地本願寺や神戸別院など、減多に参拝することができない別院での記念法要を計画しましたが、東から押し寄せる新型コロナウイルス感染症には打ち勝つことができず断念をしました。延期をするかについても話し合いをしましたが、祝賀会なしの記念式典、記念講演のみの開催としました。開催に漕ぎ着けられた現総代理事には感謝を申しあげます。神門組総代会発足時の時代背景として、親鸞聖人七百回大遠忌から十年後のことだろうと思います。本年も七五〇回大遠忌から十年目を迎えました。七百回大遠忌後、

世の中は経済成長の時代となり、二十三代勝如上人様は当時の現状を「形ばかりの僧侶・名ばかりの門徒」と

嘆かれ、門信徒会運動が始まりました。この頃だと思えます。「金のたまご」と呼ばれた中学を卒業したばかりの子どもたちが、集団就職列車で都会へ集まってくる映像を何度か見たことがありました。経済の波に飲み込まれ、故郷をすてて信心も薄れていくといった時代だったのかもしれない。

憂
楽
帳

神門組総代会結成50周年記念大会

神門組 組長
鈴木 二郎

当時、発行された組内報の写真を見ると、総代のみなさんが若いという印象を感じました。好景気に支えられた時代に本山・一般寺院の護持を真剣に考え、門徒組合議員は帰敬式を受けた者でなければならぬということ。住職、総代が三〇名程度、本山へ参拝したこともあったようです。

平成十年の蓮如上人五百回遠忌では、神門組でバス十五台を連ねてお参りしたことも資料として残っていました。この法要以降、経済が下降線を辿ることとなり、時代は右往左往させられる私たち、殊に住職をはじめとする僧族が時代の変化について行けなかつたのは確かであろうと思えます。今回、記念講演の講師をお勤めいただきました西臨寺住職・荒本由未師も諸行無常という言葉を用いて、刻一刻と時は流れているのにそれに気づかない私があることをお示しくございました。

最近の葬儀の変わりようで寺院運営、本山護持が厳しくなるのは確かだと思えます。総代の引き受け手がいないなど、問題は山積みしているのではないのでしょうか。総代会をはじめ各教化団体と協力をして魅力ある寺づくりを考える時かと感じました。

最後にご多忙にも関わらず、来賓としてご出席を賜りました佐々木了慎教務所長、歴代神門組組長、教化団体の皆さまには衷心より御礼を申し上げます。また記念講演の講師をお勤めいただきました荒本由未師にも御礼を申し上げます。

合掌

編集後記

昨年の今頃は、もう少し我慢すれば何もかも今まで通りの方ができると信じて、各種行事を控えてきたのですが、いまだに新型コロナウイルス感染症の収束の目途もたえず、会議や研修会もオンラインや延期・未定となり、手探り状態で生活をしている今日このごろです。

そんな中でも、過疎化は進んでいます。先日、お寺を閉じられる法要に遇うご縁をいただきました。門信徒や有縁の方々も参拝され、静かに穏やかに終わりました。住職代務をされた若いご住職も護持に努められましたが、建物の老朽化、ご門徒の減少、過疎化等々、厳しい状況が続く、やむを得ず寺院の解散を決定されました。仏具や法物は行き先が決まり、一部は、いろいろな手続きが整いブラジルのお寺へ安置されるとお聞きしました。この話を聞き、地域から一つのお寺が無くなることの寂しさはありますが、遠い地でも浄土真宗のみ教えが伝えられていることがとても有難く、心温まるものを感じました。(O・K)